

第26号

発行
北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 濱 鶴 松
編集
北九州信徒協広報部
担当司祭 山元 眞
担当委員 岩本光弘

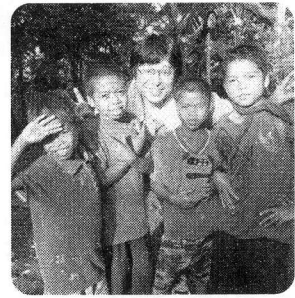
カトリック 北九州地区 信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

主な内容

- 1面 地区長—山元神父
- 2面 平和の集い
- 3面 English Column
- 4面 『Q & A』—寺浜神父
司祭紹介
- 5面 教会の正義とは
小倉教会星野村へ
- 6面 医療関連学生セミナー
教区信徒協研修会

希望のないところに希望が！



小倉教会
山元 眞 神父

9歳は40人。10代は80人。20代は200人。30代と40代は280人。50代は300人。60代は330人。70代は210人。80代は90人。90代は10人。計1820人。他に230人は籍はあるが遠隔地にいる。不明者は山ほどいる。

子どもが減ったと言われるが、厳密に言えば幼児洗礼が減ったということ。その親の世代30代はおそらく教会で結婚した人は少なく、それゆえ子どもに洗礼を授ける親も少ない。教会外で結婚し、教会外で葬儀をする方も増えているようだ。親から子へ信仰が伝えられていくことはあまり期待できない。

主日のミサ参加の状況を見れば、20代から50代の約千人のからの参加者はほとんどいない。主日のミサ参加率はよくて全信徒の20パーセント弱。三つのミサで400人もいない。

参加者の8割は60代から80代。わたしの予想では、このままでは五年後にはミサ参加者は半減する。帰天される方も毎年20人は超えていく。このままでは…。

しかし、このままではない。

悲観はしていない。教会は活性化していく。ただしいくつもの条件がある。過去にとらわれず、未来に向かっていくこと。そのためには現状を分析する。教会のことだけでなく、社会の、世界の動きを分析する。救いを求めている人は多い。真理を、平和を、愛を、ゆるしを、喜びを、幸せを…。それは、イエスがもたらしたものであり、教会がそれを伝えることができぬなら人は集まる(教会とは神から呼ばれた人たちの集い)。

実際、毎日とはいわないが、度々、電話で問い合わせがあったり人が訪れてくる。まずはそれを受け止めること。そして、同時に今、教会とつながっている信者が早く福音を受け止める喜びに生きる。教会を訪れる人がその暖かさを感じる。こと。教会を大きく開くこと。そうでなければ、せっかく訪れた方もすぐに去っていくだろう。

今をよく見つめないで、過去を懐かしんでばかりいては、10年後には人はいなくなり、聖堂だけが残ることになるかもしれない。「伝える」という教会の原点に戻る時。新たな希望が生まれてくる。

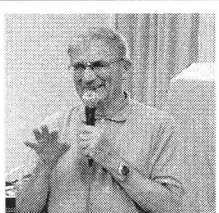
AOS 船員司牧 セミナーに参加して

小倉教会 武田晴行

わずか2時間ほどの集いでしたが、司牧的配慮とは小教区の枠を超えるものだと、改めて気付かされ、その福音的な活動に感動しました。その姿は次のとおりです。

私たちの衣食住を支えているのは、船舶による海外からの輸入物資ですが、その役割を底辺で担っているのは船員さんたちで、彼らは経済競争の中では低賃金、重労働、単身の孤獨な船上生活を強いられています。その彼らの船が日本の港(小倉の住金など)に停泊すると、神父と協力者は訪船し、ミサを捧げ、車での送迎、買い物同伴、病人訪問など船員さんたちと共にひと時を過ごします。

その任に今も携わっているのが、パリミッシヨンのミシェル・レヌー神父(八幡東区八王寺在住)で、現在78歳



を迎えながらも、訪船で船のタラップを上り下りしています。



いまわたしたちにできること、築こう平和を 足元から



▲CYG (シーグ) の活動発表

広島教区では教区大会や教区代表者会議を経て、2006年に教区として頂いている使命が「平和の使徒となる」ということであることを再確認し、それを教区全体に浸透すべく、平和の使徒推進本部を中心に試行錯誤を繰り返しています。



Sr. 山本紀久代

8月8日

平和を祈った小倉の集い

中国新聞8月2日付に次のようにありました。「米国で『ヒロシマの声は届いていますか』と尋ねた。すると『日本政府にこそ届けて』と軍縮の専門家に切り返されたという。おとといの国際シンポジウムで、(中略)報告された情けなくも、考えさせられる話だ。」

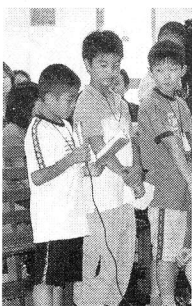
[シスターのお話し]

日本は唯一の被爆国として広島・長崎という二つの都市を抱えています。本場に日本国民が声を一つにして核兵器反対を叫んだなら、その影響力ははかりしれません。残念ながら核をめぐる日本政府や国民の意見はひとつではありません。現在では、戦争がなくなれば核兵器はなくなるだろうという考えは考えられなくなりました。まず核兵器を無くさない限り、一発何かが起こったら、核のゴミは拾い集めることができません。日本人である私たちが日本政府にきちんと声を届けなければならぬと思います。私たちは核兵器に賛成してはいないし、核の傘の下にとどまることを望んでいない、ということを引きちんと政府に伝えていくこと、それが私たちに託されている決断ではないかと思えます。祈りの中から生まれてくる行動を誰に向かってどのように表現していくか、考えていかなければなりません。それぞれの場所で、それぞれのやり方で行動し、互いに励まし合いながら歩んでまいりましょう。


[平和祈願]



▲子ども達による奉納とそれを受取る北九州地区司祭団と神学生



▶平和を願う祈り

2年連続の雨 9/23

レクレーション中止

雨天の為、2年連続中止となりました。それぞれの小教区ではどのように過ごしましたか？

★バーベキューで交流

- ・門司教会
- ・戸畑教会
- ・黒崎教会(バスで白島資料館等回りました)

★星野村に行きました→小倉教会

★教会でお弁当配付→湯川教会

★葬儀が有りそこに参加→新田原教会

★予定通りならず何もしてません。→行橋教会

信徒協代表者会議で今後の親睦レクについて検討中



Q & A

Question: What are 'In the name of Father, Son, and Holy Spirit, Amen' and the mark of the cross ?

Answer: When we begin a prayer or come into a chapel, we recite the phrase, In the name of Father, Son, and Holy Spirit, Amen , and show a mark of the cross in our heart. Though this phrase is very short, it is not a sign of beginning of prayer, or preparation, but it is just a prayer.

Next, we consider a word, In, in the phrase, In the name of . . . It means that a prayer, who recites the phrase, can stay in an assembly of Father and Son and Holy Spirit, or may the prayer keep staying in this assembly. Though it is short, it is meaningful.

The mark of the cross reminds that, by the save by cross of Jesus, we stay among the God with the Trinity, Father, Son, and Holy Spirit, and it remind also cross is our save.

The mark of the cross has such the meaning as, Blessing (, which is Jesus) is descended from Heaven, and we become children of God by Jesus, and we have a blessing of Heaven.

In addition, marking from forehead to chest, and after that, marking from left shoulder to right shoulder, show that we are separated and one part (right part) is

welcomed to Heaven, which come from Matthew 25, 31-, as Shepard divides goats and sheep into left and right.☩ Thus, we mark from left shoulder to right shoulder, with seeing from ourselves.

The meaning of Amen is two meanings as, Yes, it is and May it will be. Thus, when we recite Amen☩ with one prayer, we wish that May the thing in the prayer will be.

When we recite In the name of Father, Son, and Holy Spirit, Amen with a mark of cross, by a save of cross of Jesus, we are in the Father, Son and Holy Spirit. And we wish that even a person who do not know Jesus, also become to reply an invitation of Jesus.

Let us recite this short prayer with a great care. Even if you are busy in a daily life, and if your heart is full of afraid or anxious, please try to recite In the name of Father, Son, and Holy Spirit, Amen with a mark of the cross. Then, you become a person who never says, I have no time to pray.

Priest Terahama, in Noogata, Tagawa Church

共同回心式日程

日付	教会名	時間
12月1日(水)	田川	10:30 ,
12月3日(金)	飯塚	10:00 , 19:00
12月3日(金)	若松	19:00 ,
12月7日(火)	戸畑	10:30 , 19:30
12月7日(火)	行橋	11:00 , 19:30
12月8日(水)	湯川	10:30 , 19:30

日付	教会名	時間
12月10日(金)	直方	14:00 , 19:00
12月10日(金)	小倉	10:30 , 19:30
12月14日(火)	新田原	10:30 , 19:00
12月15日(水)	門司	10:00 , 19:30
12月15日(水)	豊津	, 19:30
12月17日(金)	水巻	10:30 , 19:30

Q&A コーナー

Q:「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」と十字のしるしの意味は？

私たちが祈りや教会に入るときに「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」と唱えながら（心の中で）十字のしるしをしています。この「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」は、とても短いのですが実はお祈りです。祈りの始まりの合図、作法や準備ではありません。カトリックの祈りの本や、その他のお祈りの本にもちゃんと最初にお祈りとして載っています。このお祈りを唱えるときに「父と子と聖霊とのみ名によりて、アーメン」と唱えられる方も少なくないですが、ただしくは「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」です。次に「ののみ名によって」の「よって」はラテン語や英語の In（のうちに、ののなかに）です。これを日本語は「よって」としています。ですから「父と子と聖霊のみ名によって」は、

これを唱える人が父と子と聖霊の交わりのうちに（なかに）います、また居続けることができまますようにという願いが込められています。短いですがとても大きな意味のあるお祈りです。

十字のしるしにはイエス様の十字架の救いによって、わたしたちが父と子と聖霊の三位一体の神様のうちにいる、十字架こそ私たちの救いであるということをお祈りし、天からの恵み（イエス様）が私たちにくだり、イエス様によって神様の子どもとなり、天の国のお恵みにあずかることができます。十字のしるしにはこういう願いが込められています。もちろん「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」と十字のしるしにはこれだけでなく、まだまだたくさん意味があります。

分けられ、天の国に迎え入れられるという意味で左肩から右肩にしるしをしていると言われています。わたしたちローマ・カトリックでは自分から見て左肩から右肩にしるしをします。

「アーメン」の意味は「はい、そうです」と「はい、そうなりますように」という二つの意味があります。ですから私たちが「アーメン」と唱えるときは、その唱えたお祈りがそのとおりです、またそうなりますようにと

いう願いの意味があります。「父と子と聖霊のみ名のよって、アーメン」と十字のしるしをしながら唱える時、イエス様の十字架の救いによって、わたしたち一人一人が父と子と聖霊のうちに居ること、そしてわたしたちだけでなく、まだ神様の交わりのうちに居ない、イエス様を知らない人々が、イエス様の招きに応えることができますようにと願っているのです。世界中で多くの人が今も私たちのた

めにもこの祈りを捧げています。

わたしたちもこの短いお祈りを大切に唱えていきましよう。特に、日々の生活のあわただしい時や、さまざまな事柄で頭も心も一杯の時に、ゆつくりと十字のしるしをしながら「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」と唱えてみてください。忙しくてお祈りする時間がないとは言えなくなるのでは（？）。

（直方、田川教会・寺浜神父）

司祭紹介コーナー



門司教会 主任司祭
井手公平 神父

1969年8月生まれ 41歳 佐賀教会出身

『司祭談』 2008年2月11日司祭に叙階されました。同年4月から大名町教会に助任司祭として、翌09年4月からは天草3教会(大江・崎津・本渡)の助任司祭として、それぞれ1年ずつ赴任させてもらいました。そして今年の春より、こちら門司教会に着任。初めての主任司祭と幼稚園の園長をさせてもらっています。率直に申せば、門司教会も門司聖母幼稚園もそれなりに「いい教会」「いい幼稚園」だと思っています。私は、強度のアレルギー体質。T神父様の“そばアレルギー”は有名ですが、私はハウスダスト(ダニ)・樹木花粉・動物・昆虫と相性が悪いらしく、よく鼻炎や喉奥の炎症になやまされます。心身ともに軟弱であり使い物にならなそうな私ですが、皆様のご協力の下、何とか与えられた勤めを果たせていけたら、と思っています。

『信徒談』 前任の伊東神父に続いて門司教会に若い神父が赴任されました。少子高齢している門司教会なので、いろいろと苦勞をお掛けしています。神父は、教会のことで、私どもに無理をさせないよう、そのお名前のように公平に配慮して下さいます。神父が赴任されたとき、神父のリップサービスに最初は戸惑いましたが、みんなの笑顔は何よりも大切にされているのでしょう。機知やウィットに富む会話や、説教の中で引用される日頃からいつも勉強されていること、主日の説教で加えられる一人のアメリカ人のための英語での説教などなど、私たちのためいつも努力されていることに感謝しています。また、幼稚園や教会学校の子どもたちや侍者たちの教育にも力を入れておられ、将来の門司教会のために種を蒔かれています。子どもたちと一緒にいるときの神父の笑顔は、私たちの希望となっています。

正義と救いの意味

(3) 黒崎教会 瀬下

マイケル・シーゲル師(南山大学教授)が語る

「和解」とは「一致する」という言葉で「正義」を解釈しなければなりません。真の和解を求めることが正義だと理解すべきです。

モーセ五書に社会体制を知るものがあります。イスラエル民族がエジプトから逃げ、シナイ半島をわたり約束の地に向かっている時、神が与えた律法です。これは約束の地に入ってからどういふ社会を作るかでこれが特徴的なのは、既に在る社会ではなく、これからどういふ社会を作ってゆけばよいかを語っているからです。聖書が、どのような社会を理想としているかは旧約聖書の正義、キリスト教の正義を考える時に役立つものです。イスラエル民族が約束の地に入ったとき、土地が分配

されます。各家庭はある程度の土地を所有することになり、その土地が家族を維持するためのものとなります。他の人に依存し従属関係をつくって生命を保つのではなく、自力で生きる体制だと思えます。

しかし問題が二つあります。一つは、どんなに土地を分配しても、どんなに土地を家族に分けても、農業が下手だったりその他で失敗する人が出てきます。土地を持っていても貧困に陥る場合があります。もう一つは、土地が所有されることで、(逆に)守られなくなってしまう人のことです。やもめ、嫁いでも主人が亡くなり兄弟とも結婚できなかつたり、実家に帰ることも出来なくなつたりするいわゆるホームレス状態、孤児も同じ、そして寄留民：土地分配の後に来た人達です。土地を持っていても貧困に陥つた人達とやもめ、みなしご、寄留民たちに対して無利子の貸し付けが義務付けられるのです。貧

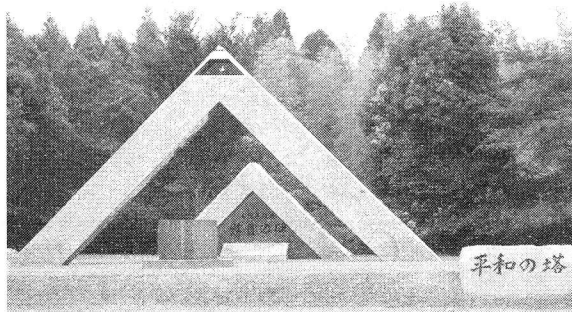
しい人に貸さなければならぬ、利子を取ってはならない、そして7年ごとに債務を帳消しにしなければならぬ。

このような人たちを守る規定は沢山あります。あまりに貧困になって土地を売却しなければならなくなった時、(土地を受取つた人は)五十年後に返さなければならぬのです。ひとりの世代の失敗や不運が代々の子孫にまで及ばない為のものです。つまり五十年ごとに農地改革が行われるような話です。これは、社会が裕福な階層と貧しい階層に分かれてゆかない体制だと言えます。やもめ、孤児、寄留民その人達にお金を貸せば、担保を受取つてもよいのです。が、上着を担保としてもらつたなら、毎晩その人に上着を返さなければなりません。つまり人の二一ズを無視する社会ではないのです。旧約聖書をみれば、正義という言葉が一番使われているのは、やもめ、孤児、寄留の他国人にです。ですから正義は、人とつなかりをもつて人間らしい態度を創ることだと理解すればよいのです。(終わり)

レクレイション大会が中止になった時のためを考え、しっかりと準備(?)をしていまましたが、2年続けての中止になったので、星野村で楽しい一日を過ごすことができました。

参加者のほとんどが星野村は初めてでしたし、バスの運りはひっそりと静まりかえっていました。平和の塔の前に立つといやが上にも厳肅な気分させられ、静かに燃え続ける原爆の火を見つめると、戦争と平和について改めて考えさせられました。

小倉教会の小旅行 星野村へ 北川卓也



平和の塔

星野村には2時間ほどしか滞在することができませんでしたが、ゆつくりと温泉に入る人もいれば、高台にある天文台まで足を伸ばして景色を楽しむ人、時間ギリギリまでお茶を味わう人など静かな山あいの中でそれぞれ楽しい思い出作りになりました。特ダネ(?)一つ。

S携帯電話会社の白い犬のお父さんはみなさんご存知でしょうが、星野村にも白いお父さんがいます。私と数人が道端でばったり出会いました。

転手も平和の塔が初めてだったので大型バスで道に迷わないか心配しながらもなんとか到着しました。星野村も当日の朝まで雨だったせい、私たちが着いた頃はまだ人もほとんどいなく、雨上がりの平和の塔の周

白いお父さんにそっくりと話していると、売店の壁に「星野村のお父さん」と写真入の大きなポスターがありました。星野村ではメジャーな存在のようでした。



教会の社会教説綱要

1891年発布の「レールム・ノヴァルム」以降、激動の20世紀を経て更新されてきた教会の社会教説。教員たち考案の集りを経て公式に体系化。オランダ語の社会教説に相当する教員教説。その基本教義のあり方を解説。2010年11月16日

カトリック医療関連学生セミナーについて

門司教会 桑野貴巳子

日本カトリック医師会（J C M A）の事業のひとつに、カトリック医療関連学生セミナーがあります。毎年夏に各支部の主催で行われますが、今回の2011年度は福岡支部主催で「第27回医療関連学生セミナー」を開催することになりました。すでに準備会議も開き、今回のテーマは「まんなかのいのちいのちへのまなざし」サブテーマは「未来の医療をつくろう」に決定しました。

・日時は8月27日(土)・28日(日)。
 ・場所は日本カトリック神学院福岡キャンパスです。

・対象は医科・歯科・薬科・看護・他医療関係の学生および医療従事者ですが、関心のある方にもぜひご参加ください。

約30年前にJ C M A福岡支部は福岡・熊本・北九州とそれぞれの支部に独立しましたが、北九州支部もこのセミナーに少しでもお役に立てればと前回より参加しています。

福岡教区信徒協研修会

昨年は役員対象の教区研修会でしたが、今年もつとたくさんの人たちに参加してもらおうと、全員対象の研修会として、9月20日(月・祭)に大名町教会で開催しました。基本のテーマは昨年に引き続き「教会に明日はあるか」



霊的立場から発表の
平田敬神父

でした。昨年の研修会では「私の教会には子どもがいるから明日はあります」という意見もありましたが、もつと基本

的な課題を論議できるように、最初に4人の方から提言を出していたら、その話を聞いてから研修会を始めました。

午前中は、提言を聞いての分かち合いを少人数で行いましたが、各グループで様々な話が出たようで、時間が足りないグループもありました。



熱心にメモする研修会参加の皆さん

午後には提言内容の4グループに分かれて分かち合いを行ったのですが、どのグループも時間一杯話し合いがあり、その後の全体会でも様々な感想が出されました。

今年も爽りの多い研修会になりました。参加者は北九州と佐賀からが多く、特に佐賀地区の参加と発言が非常に目立ちました。

この研修会のまとめの報告

書は全小教区に送ってありますので、内容を知りたい方はぜひご一読ください。
 (広報・岩本)

ニュースあれこれ

*フィリピン人協会

以前からお知らせしていた北九州地区のフィリピン人協会が8月に正式に結成されました。北九州地域には千五百人近くのフィリピン人が居住していると見られています。小倉教会のバザーへの出店から活動が始まっています。皆さんの教会で出店を希望されるなら、何時でも声を掛けてください。見たことも食べべたことも無い不思議な料理も出てきますよ。

*クリスマス会のお知らせ

外国人信徒のためのクリスマス会が12月19日(日)午後10時から小倉教会であります。三時ごろから英語によるミサ、その後パーティーを行います。詳しい内容は11月末に決定します。小教区に来られる外国人の人たちにもお知らせください。

編集室の窓

★今期から地区長が山元神父になりましたが、久しぶりの地区長交代であり抱負を書いてももらいました。今まで山元神父に担当していたQ&Aコーナーは寺浜神父に担当していただくことになりました。楽しみにしてください。

★10月3日、小倉教会のミサで、さいたま教区の谷司教がベトナムの教会の話をされました。15万人の信徒がいるのに司教2人と司教が1人の世界一神父が少ない教区の話でした。どの教会にも司教がいる日本の教会とは大違いですが、社会主義国では司祭の叙階にも政府の許可が必要なので、そのようになっているようです。ブラジルでは一週間に千kmも移動して司牧をしている司祭の話も聞きました。これからは司祭に何でも頼るのではなく、自分たちで自立して信仰を守っていく時代になっていくのではないのでしょうか。隠れキリシタンの時代に日本の信徒は250年も、司祭なしミサなしで信仰を守ったのですから。

(岩本)